

川を越えて海を越えて
遊佐の鮭は北海道で
日本一の「メジカ」になる

鮭がゆく道
私たちがめざす道
ふたつの道が重なった
未来の潮流

月光川で生まれて
遊佐の人たちが育てた
粒ぞろいの卵たち

かわいい鮭には、旅を。

鮭の一生はよく「旅」に例えられます。川で生まれ海で育ち、
母なる川へと帰る、孤独で険しい旅路をなぜ進むのでしょうか。
鮭の生態は不思議に包まれていますが、彼らは命をつなぐため懸命に泳ぎ続けます。その偉大な生命力に導かれて、私たちも彼らと旅を共にしたくなるのかもしれません。

ふるさとの川から、世界の海へ。力強く泳ぎ出す稚魚たちの姿を見送るたび、この川と海はつながっているという実感が湧いてきます。大きな鮭になって帰ってくるように、立派に成長してメジカとなるように——。私たちの願いが一筋の光となって、彼らを未来に導いてくれるよう願ってやみません。

海で成長を続ける鮭たちは、やがて生まれた川に帰るものもいれば、海路の途中に水揚げされるものもいます。手塩にかけた鮭が、北海道で希少なメジカとなることは、豊かな海を守ろうとする「お互いさまの心」の交流です。その先に待つのは、前途洋々たる未来であると信じて。

海から母なる川へ

そしてまた 旅のはじまり

遊佐町の月光川水系は、鮭たちのふるさと。
4年の旅から帰ってきた鮭が託してくれた卵をふ化させて、
再び海へと送り出すために、私たち人が手を添えて
大海原を泳いでゆける健康な鮭の子どもを育てています。

9月中旬 川刈り、ウライ設置

鮭が遡上する滝渕川を
清掃して、鮭を導いて採捕
する施設「ウライ」を設置します。



9月中旬 遡上、採捕開始



10月中旬～ 受精卵～ふ化、仔魚と稚魚の管理

積算温度(1日の平均温度の合計)を目安に、成長する鮭にあわせて順次作業を行います。

受精卵をふ化槽へ



発眼

発眼したら検卵を行い
養魚池や浮上槽へ



ふ化

ふ化後は腹部の「さいのう」を
栄養源に育ちます。さいのうが吸収されて、
浮上したら飼育池へ



1月

鮭供養

漁期の終わりに、鮭の命をいたでていることに感謝し、
供養しています。

2月上旬～下旬

ウライ撤去、放流前の河川清掃

放流した稚魚が海にたどり着くまでの
河川の水草を刈り取ります。ウライも撤去します。

旅支度
始めるよ～



10月中旬

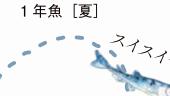
採卵、受精

約1週間～10日ごと、
採卵数1000万粒を目指して行います。



受精すると
一気にオレンジ色が
白濁します

オホーツク海



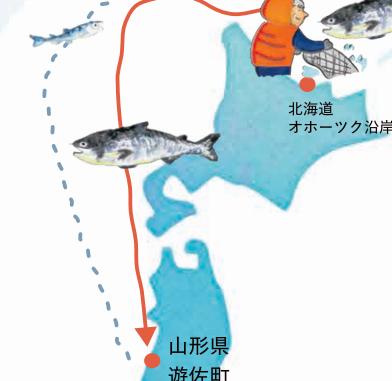
大きくなったよ!

2～4年魚
[春～夏分布域]



ベーリング海

2～4年魚
[越冬場所]



川から大海原へ

長い長い 旅のゆくえ

遊佐町を旅立った鮭たちは、オホーツク海や
ベーリング海、アラスカ湾などに移動し
季節によって住み分けながら成長します。
長旅を続ける鮭たちが、生まれた川に
帰ってくる確率はほんの1%弱。
厳しい海を泳ぎ切る健康な体を育てるのが
鮭のふるさとを守る私たちの役割です。

3月

放流

体重1グラム、体長5センチほどに成長した
稚魚を、放流適期にあわせて飼育池
から滝渕川へ放流します。地元の子どもたちの放流体験も行われています。



かわいい鮭の事情

もっと知りたい 鮭のこと

遊佐町に帰ってくる鮭と北海道でメジカとして漁獲される鮭。
枠川でのふ化事業について、組合員に聞きました。

鮭の回帰率を高めることが、
すべての課題の
解決策につながります



枠川鮭漁業生産組合
組合長 尾形修一郎



Point 1

私たちの想いは
「豊かな海」を創ること。
鳥海山麓から
湧き出る恵みの水と、
そこに培われた
鮭のふ化の文化を大切にしながら、
川と海のつながりの象徴でありたい
と思っています。

Point 2

丈夫な稚魚を育てることをいつも念頭に置いて作業をしています。採卵するときはメスの親魚を丁寧に扱うこと。稚魚になったら、水量と水に含まれる酸素量の管理が重要です。稚魚を害鳥などから守るために、時には泊まり込みもします。



菅原鉄彌

Point 3

私たちの仕事
は人工ふ化だけ
ではありません。
鮭が過ごしてきた
環境(水温やえさの
量)が分かる器官「耳石(じせき)」を
採ったり、卵の段階で耳石に標識を
施したり、年齢が分かるウロコ採りを
したりと鮭の生態調査にも協力して
います。



土門正昭

Point 4

稚魚のときに
どれだけ丈
夫に育ったか
で、生まれた
川に帰ってくるかが決まります。人工
ふ化をしながら、自然界で育った稚
魚により近い稚魚を育てられるよう
努めています。



女性たちの細やかな気配りで、
組合も稚魚も元気！



「メジカ」のふるさと

～鮭がつなぐ川と海～

鮭は成長の過程で「メジカ」といわれる最高級ブランドとして北海道のオホーツク海沿岸で水揚げされます。メジカは成熟前のため体に栄養を蓄え、食べると脂がのっておいしいのが特長です。北海道でメジカの母川を調査したところ日本海側の河川と判明、月光川も重要な放流地であることが確認されました。以来、平成25年頃からオホーツク地方とのメジカの広域連携が始まりました。

目と鼻が近いから
「メジカ」って
いうんだよ！



北海道の皆さんと

“育てる”遊佐町と“獲る”北海道との交流

遊佐町で育てて北海道で獲る、一方通行な資源提供のように見えるこの関係を「川と海をつないで鮭資源を考えることと捉え、遊佐町や山形県、北海道の漁業関係者らによる「遊佐町めじか地域振興協議会」が発足したのは平成25年のこと。メジカ漁獲量の増加を目指したこの連携によって、枠川鮭漁業生産組合は北海道から最新のふ化のノウハウを得て、鮭のふ化・放流事業に取り組んでいます。



お問い合わせ

枠川鮭漁業生産組合

【採捕場】

〒999-8525

山形県飽海郡遊佐町直世向田12-5

TEL 0234-77-2083(10~12月)

【ふ化場】

〒999-8525

山形県飽海郡遊佐町直世山居62-25

TEL 0234-72-5257(1~9月)

※お問い合わせは、10~12月は採捕場、
1~9月はふ化場へ。

※採捕期間中(10~12月)は生鮭やいくらも
販売しています。

詳しくはお問い合わせください。